

## 朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 24章 28-32節 (新約聖書161頁)

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

### 一緒に

イエスが十字架で処刑され墓に納められてから三日後、墓にはイエスの遺体がありませんでした。イエスは墓にはおられませんでした。それからイエスはキリスト（救い主）として復活してわたしたちと共におられるという信仰が、弟子たちの間に生まれました。

その一つのエピソードが先ほど読んで頂いたお話です。13節から始まっています。クレオパともう一人の弟子がイエスの十字架の死に失望し故郷のエマオへ向かう途中でのことでした。イエスが近づき、語りかけ、一緒に歩き、聖書からご自身について説きました。

日も傾き、目的の村に着いた時「一緒にお泊まりください」「イエスは共に泊まるため」「一緒に食事の席に」とあります。イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱え、パンを裂いて渡しました。すると二人の弟子はイエスが一緒におられると確信したのです。

しかし彼らがイエスだと分かった途端、その姿は見えなくなりました。そうですね。復活は目に見えるものではなく、心の目が開いて、イエスはキリスト（救い主）として一緒に、共におられると喜びに包まれることです。今も、皆さんと共におられます。

（しばらく黙祷しましょう）

祈りましょう

わたしたちの罪のため十字架にかかり、三日目に復活して救い主として共にいてくださる主よ、あなたはわたしたちの罪を赦し希望を与えてくださいます。どうか新しい学校生活を始めた英和生を祝福し、彼女たちの夢と希望をあなたの御心にかなうものとしてください。そしてどうか世界で困難な生活にある人々に心を寄せ、あなたが一緒におられると信じて、共に仕える道へと歩ませてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン